

2023.10.28 出前トーク

1.テーマ	今後の農業行政について
2.日時	令和5年10月28日（土）14時～15時
3.場所	中央公民館第3学習室
4.出席者	（直方市）直方市長、総合政策部長、産業建設部長 司会：秘書広報課長 概要記録：秘書広報係長 （主催者側）永満寺農業を考える会（17名）
5.内容	テーマに基づき永満寺農業を考える会と直方市長が意見交換を行いました。意見交換の主な内容は以下のとおりです。 ●水路がない。米をつくりたくても水がなくてつくれない。次の世代が水不足で悩まないよう対応していただきたい。 福智山ろく花公園の水を夜だけ使わせていただけないか。 （市長）福智山ろく花公園は指定管理になっている。入園料と委託料で運用している。水の利用が可能かどうか確認し解決策を協議したい。 ●高齢化や生産人口の減少によりため池の草刈が難しくなった。急斜面のため事故もおこった。草刈の対応について市で良い案を出してもらいたい。 （市長）シルバー人材センターに草刈業務があるが、会員も高齢化して危険な場所は作業できないと聞いた。 ロボットを活用し斜面の草刈をしているところもあるようだ。国の交付金を活用し、対応していただきたい。 ●猪が掘ったりして穴が開いているため機械で対応できない土地もある。 （産業建設部長）多面的機能支払交付金という制度がある。地元の団体も申請できるが、業者に頼むなど外部の力を借りる策もある。環境エリアでの交付金を貰わない代わりに市が管理するというやり方もある。 当初、地域からの違意見では永満寺は交付金を活用し地元で管理していくことになっていた。実情が変わってきたのであれば管理方法を見直す次期かもしれない。 農業振興課にご相談をお願いしたい。

	●現在、多目的交付金を貰っているが、額が足りない。 （産業建設部長）交付金は農地面積で計算されている。永満寺地区は農地面積が広い。農業土木係でため池の状況など把握していると思う。機械で対応できるかなども含めて再度現状を確認する。 （市長）現地調査を踏まえて解決策を模索したい。 ●昨年は農業を3人辞めた。来年また一人辞める予定。全員が70歳以上。山田地区は殆ど水がない。下の方の田んぼは水がない状態。80町あるのが10町休耕している。 （市長）山田地区は花公園の水が使えるとどうにかなりそうだが、宅間窯の方は厳しいだろうと思う。 ●昔、取水面積を農業土木に出してもらったことがある。資料上では水が賄えるようになっているが現状とは差がある。 （市長）永満寺エリアの水田は貴重な財源だと思っている。生産基盤としての維持できるか考えなければいけない。 宅地にしていくと貯蓄機能がなくなるため水害が心配。 担い手がなくなる原因の一つは農機具が高いことにあると思う。 ●米を高くしても生産性は上がらない。市が燃料代の補助金を出したことはすごく助かった人がいると思う。 （市長）物価高は市町村レベルで対応できる問題ではなく、国が動かないと賄えない。農業を守るためには国が見合った対応をしないといけない。市は国に要望している。市ができることはしていきたい。 ●昔（数十年前）から農業の課題がある。行政と密に情報を共有することを望んでいる。このような機会をつくってほしい。 （市長）農業振興課と密に情報を共有したい。顔の見える農業振興課にする。土木部署においても同じ。現場が動かないときは、声を寄せてください。
--	--